

2007-2008

秋 平成19年度（2007）秋季地区予選

A（希望ヶ丘）	希望ヶ丘	鶴見	戸塚	新栄	勝点	得失	順位
希望ヶ丘		11-4	0-3	6-2	2	8	2
鶴見	4-11		0-7	8-7	1	-13	3
戸塚	3-0	7-0		7-0	3	17	1
新栄	2-6	7-8	0-7		0	-12	4

平成19年度（2007）秋季県大会

【1回戦】
9月8日希望ヶ丘高
山手学院 0 0 0 1 0 2 0 1 | 4
希望ヶ丘 3 0 0 0 0 3 3 2x | 11
(8回コールド)
(山) 有村、石垣 - 伊藤
(希) 内山、松尾、矢作 - 佐藤
▽三塁打 内山、阿部 (希)
▽二塁打 徳永 (山) 内山 (希)

【2回戦】
9月9日 伊勢原球場
厚木北 0 0 3 0 0 0 0 0 0 | 5
希望ヶ丘 0 1 2 0 0 0 0 0 0 | 3
(延長11回)
(厚) 森田 - 綾部
(希) 矢作 - 佐藤

春 平成20年（2008）春地区予選

N（希望ヶ丘）	希望ヶ丘	瀬谷西	横浜翠嵐	荇田	勝点	得失	順位
希望ヶ丘		9-5	1-0	18-0	3	23	1
瀬谷西	5-9		3-10	6-4	1	-9	3
横浜翠嵐	0-1	10-3		9-8	2	7	2
荇田	0-18	4-6	8-9		0	-21	4

平成20年度春季県大会

【1回戦】
4月12日大和引地台球場
霧が丘 3 2 0 0 0 0 0 0 | 5
希望ヶ丘 3 1 1 1 0 0 0 0 x | 6
(霧) 松江、平田-広田
(希) 矢作-佐藤
▽三塁打 鈴木 (霧)
▽二塁打 広田 (霧) 花田 (希)

【2回戦】
4月19日桐蔭学園高
日大 2 2 0 0 2 6 | 12
希望ヶ丘 0 0 0 0 0 0 | 0
(六回コールド)
(日) 相澤、湊-宮林
(希) 大橋、小笠原-佐藤
▽三塁打 土屋 (日)
▽二塁打 大場、若山2 (日)

夏 第90回全国高校野球選手権北神奈川大会

【1回戦】7月13日 伊勢原球場
試合時間1時間38分
麻生総合 0 0 0 0 0 0 | 0
希望ヶ丘 0 1 3 3 0 3x | 10
(六回コールド)
(麻) 内田、本澤-高橋
(希) 矢作-佐藤
▽三塁打 大島 (希) ▽二塁打 大島、花田、内山 (希) ▽犠打 麻0希2 (堂本、佐藤)
▽盗塁 麻0希5 (松尾2、堂本、花田、斎藤) ▽失策 麻2 (山上2) 希0 ▽暴投 本澤2 (麻)
▽捕逸 高橋 (麻)

【2回戦】16日大和引地台球場
試合時間2時間10分
希望ヶ丘 6 1 1 2 1 0 3 | 14
清南 0 1 0 1 0 0 0 | 2
(七回コールド)
(希) 大橋、小笠原-佐藤
(清) 佐藤、神-川瀬
▽本塁打 斎藤 (希) ▽三塁打 松尾 (希)
▽二塁打 内山、花田 (希) ▽犠打 希0清2 (相澤2) ▽盗塁 希9 (松尾2、花田2、内山、太田充、佐藤、大橋、福田) 清0 ▽失策 希0清3 (神、佐藤、川瀬) ▽暴投 大橋 (希) 佐藤 (清)
▽捕逸 佐藤 (希) ▽ボーク 大橋 (希)

【3回戦】19日県立相模原球場
試合時間1時間34分
希望ヶ丘 0 0 0 0 0 | 0
桐光学園 2 3 4 0 1x | 10
(五回コールド)
(希) 内山、小笠原、矢作-佐藤
(桐) 森、安藤-奥野
▽三塁打 谷本 (桐) 松尾 (希) ▽二塁打 秋山 (桐) ▽犠打 希2 (松尾、大島) 桐3 (筒井、秋山、森) ▽盗塁 希0桐3 (筒井、建部2) ▽失策 希0桐1 (谷本) ▽暴投 内山、矢作2 (希)

希望ヶ丘高校硬式野球部 K61

佐藤茂記

同期は18名マネージャー1名。
希望ヶ丘高校の広大なグラウンドは地区予選の会場になっており、会場準備が大変だったことが思い出されます。両翼100mの会場を作るにはたくさんのネットを遠い外野まで運ばなければならず、その作業はまるで拷問のよう。特に大ネットといわれていた二つの特大ネットの重さはものすごく、いつもじゃんけんで負けた人間が運ぶくらい大変でした。そんな広大なグラウンドでも、1年生の新人戦(毎年恒例)で、普段全然打たない私が、柵越えの満塁ホームランを放ち、監督から交通事故が起きたといわれた記憶はうれしくて鮮明に残っています。
K61のメンバーはそれぞれの個性が非常に強く、当時の監督吉野哲也先生(社会科)とコーチの福島さん(OB)には苦勞をかけたと思います。時には問題を起こし、雑用をさせられるなど、筆が進まない思い出もたくさんありました。

私自身はキャッチャーだったため、ブルペンにいる時間が非常に多く、投げ込みの日には2時間半ほど球を受け続けるため、疲労困憊でした。しかし、キャッチングの力やストップングの力がついたことは間違いありません。また、OBの古瀬さんから受けたキャッチングの指導は非常にためになり、OB会がしっかりとしている希望ヶ丘高校の伝統のすごさが身に沁みました。最上級生になった際の群馬遠征のときに前橋育英戦で審判から「君のキャッチングを参考にしろと向こう(前橋育英)のキャッチャーに言っておいたからしっかり頼むよ」と言われたり、希望ヶ丘高校グラウンドで行われた審判講習会で審判員の方から「このキャッチャーのキャッチングで騙されてストライクって言っちゃだめだよ」と言われたりしたことは、つらいブルペンを耐えたことで得られたものと思いに残っております。

試合の思い出は、最上級生になるまでブルペンにいる時間が非常に長く、印象的な出来事しか記憶に残っておりません。
1年生夏の公式戦では、1年生ながら同期が2名ベンチ入り。2回戦の桐蔭学園戦で、同期の内山投手が桐蔭学園4番の原選手(後に早稲田大学)に頭部ヘッドボールを当て、観客席から怒号が聞こえたことは、高校野球の洗礼を浴びたようで印象的でした。
最上級生になり、同期の投手は3人・後輩の投手もそろっており土日は毎週4試合の練習試合をこなすことができ、非常に充実した1年間でした。一方で、成績の悪かった部員(赤点をとった)は、赤いストップキングを履かなければならない(普段は紺)ルールが我々世代で誕生し、勉強にも励まなければならない状況を作ってしまったことは申し訳なく思います。
公式戦では、思うように勝つことはできませんでしたが、スコア以上に思い出に残る試合が多く、スコアを思い出しながら映像が頭に浮かぶのはいい経験だった証拠だと思います。